

ニュース・レター

NO4
2009年新年号

おやじ日本



おやじ日本の飛躍を誓って

おやじ日本会長 竹花 豊

皆さん、明けましておめでとうございます。世界同時不況の中、厳しい新年ですが、気持ちを新たにしてしぶとく頑張りましょう。皆様のご多幸を祈念しております。

さて、おやじ日本を設立して早や4年半。今年は、飛躍の年です。まず、現在東京に申請しているNPO法人の認定手続き及び登記が、3月までには完了する見込みです。その時点から、これまでの任意団体「おやじ日本」は発展的に解消され、NPO法人として新たな船出をします。

これにより、組織の運営が法の規定に従ったより信頼の置けるものになり、私たちの活動が多くの人々のご支援を得て、大きく発展する基礎固めができます。ここまで来ましたのは、運営委員の方々を始め、会員、賛助会員の皆様の献身的なご努力、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

そこで、本年6月7日に、渋谷区役所隣のCCレモンホールで、おやじ日本NPO法人設立記念大会を開催します。記念大会にふさわしいものになるよう、すでに各般にわたり準備を重ねています。メインテーマは、「世界のおやじ、日本のおやじ」と題する、おやじのあり方論です。本ニュースレターに12月13日に開催した、プレディスカッションの様子を紹介しましたが、熱い議論で盛り上がり、これから厳しい社会で生きていく子どもたちに父親が伝えるべきこと、日本の父親に欠けているものは何かなど身につまされる指摘が数多くありました。私たちは、他の多くの国々の父親たちもお招きし、更に議論を重ね、6月に備えるつもりです。とりあえず、3月には、渋谷のおやじ日本事務所隣の部屋を借りて、おやじ日本とともに、小規模ですが、討論会をやる予定です。6月の大会とともに、皆様のご参加をお待ちしております。

おやじ日本には、現在800名を超える会員がおりますが、会員の皆様には、NPO法人化に伴い、会費の件で、ぜひご理解を賜りたいことがあります。この法人の正会員は、現在運営委員をしておられる方を中心に50名程度の方を予定しており、会費は年1万円を予定しております。一方、そのほかのおやじ日本の会員の皆様には、登録会員として引き続きご参加願いたいと考えています。この場合の会費についてですが、年会費として、1,000円を申し受けたいと考えています。これは、主に、このニュースレターを中心に、会員の皆様への郵便物の送料等に使用する予定です。会員の皆様には、本会に入会いただく際に、入会金1000円を頂くだけで後は会費を請求しないと申し上げてきましたので、大変心苦しいのですが、おやじ日本の発展のために、ぜひご理解願いたいと思います。なお、詳細は、NPO法人になり次第、ご連絡を申し上げ、あらためて、「NPO法人おやじ日本登録会員証」を発行する手続きなどについてご説明いたしますので、なにとぞよろしくお願ひいたします。

昨年は、全国の多くの父親たちと新たなつながりができた年でした。埼玉のおやじたち、広島のおやじたち、兵庫、山形、富山、横浜等々のおやじたち本当にありがとうございました。今年は、1月に姫路で新たなおやじネットワークが誕生します。秋田や高知でもその動きがあると聞いています。おやじ日本の力はたいしたことはありませんが、少しでもお力になればうれしく思います。また、昨年は多くの県に出向いたこともあり、かなり出費がかさみ、多くの方々にご支援をお願いいたしました。日本を美しくする会の多くの事業者、西武ホールディングス、東急、広島中央ロータリー等には特別な御贊助をいただき、感謝申し上げます。また、多くの個人の方々にも贊助していただきました。ありがとうございました。おかげで、昨年は少し余裕を持って、年を越すことができました。

本年も、皆様のご期待に応えるべく、ボランティアではありますし、精一杯頑張りますので、引き続きよろしくお願ひいたします。
(昨年度の活動の一覧表は13ページに掲載しましたので、ご覧下さい)

おやじたちが本音で意見交換！～息子として、父親として、夫としての自分を語った

おやじ日本では、来年度の記念大会の中心企画として、世界各国のおやじと日本のおやじたちが父親のあり方を問う、パネルディスカッションを予定しています。その準備企画として、12月13日(土)午後5時～7時、おやじ日本事務所で、「世界のおやじ、日本のおやじ。意見交換会」を行いました。

この意見交換会では、竹花会長が進行役を務め、6カ国より、マイケル・プリフォンテーン氏(アメリカ)、クロス・アンドリュー氏(カナダ)、ミア・モニ氏(バングラデシュ)、ジョージ・アブラハム氏(インド)、セルヒオ・アリエル・エスクデロ氏(アルゼンチン)、キム・デホン氏(大韓民国)の6氏が出席。日本のおやじとして、森田氏(おやじ千葉ネットワーク)、白石氏(おやじ千葉ネットワーク)も参加し、約25名の会員が同席し、意見交換会がスタートしました。



進行役の竹花会長

冒頭、竹花会長より「父親のあり方についてディスカッションしたい」という挨拶があり、参加者に、次の3つの質問が出されました。

- ①あなたの父さんはどんなお父さんですか？お父さんから何を学びましたか？
- ②あなたは自分の子どもにどんなことを伝えたいですか？
- ③日本の父親について、どう考えますか？

息子は、父親から、何を学んだのか？

ゲスト6人のうち3人が軍人の父親ということでしたが、「こわかった」「優しかった」「何度もなぐられた」「なぐられたことは一度もない」と、印象に残る父親像は各人各様で、「期待に応えられなかつた時に殴られた」「信頼に応えるよう頑張ったので、叱られたことはほとんどない」「常に子どもを信じきついていて疑わない父親だった」「父親に言われたことは今でも守っている」等、いろいろな父親との関係が語されました。

日本のおやじたちからは「こわいお父さんで、悪いことをするとなぐられた」「納屋に閉じ込められた」という一方で、「母親の方がこわかった」という発言も飛び出しました。「父親の教えはあまり身についていないが、父親と同じように毎日お酒を飲むことだけは守っている」と言う発言には笑いの渦が広がりました。

父親からの具体的な教えとしては、○他者への敬意 ○ウソをつかない
○誠実であれ ○約束を守る ○自身の行動に責任を持て ○弱いものいじめない ○他者への奉仕 等々があげられました。

そんなおやじたちが自分の子どもに伝えたいことを話す時の表情には、共通して、お子さんへの愛情が感じられましたが、「多少親子関係が悪くなつても、伝えるべきことはきちんと伝える」「どの子も同じように愛していると感じてほしい」としながらも、「ちゃんと伝わっているかどうか分からぬ」という不安な本心も語られました。



質問に耳を傾けるミア氏とジョージ氏

父親としての評価はどうだろうか？

ここで、竹花会長から「奥様は、父親としての皆さんを評価していますか？」との予定外の質問が出て、皆さんの表情が一挙に崩れました。「もっとお父さんらしく！」と言われている」「気持ちはあるが、完璧にやりこなせない」と、妻に言われてするのではなく、自分で動いてほしいと言われる」「自分ではやっているつもりでも、妻は何もやってないと思っている」等、低い評価が目立つ中で、一緒に参加されたゲストの奥様の「家にいられる時間の長さには関係ない。仕事が忙しくても、とても良いお父さん！」という発言が印象的でした。



会長の質問に考え込むマイケル氏とクロス氏

日本のおやじたちからは、「朝早くから夜遅くまで仕事ばかりしているので、父親としても夫としても失格だろう。合格点はもらえないと思う」「お父さんは、勝手にやっている人だよね」と言われる等、ちょっと淋しい発言が続きました。

母親に任せ過ぎ！？ 日本の父親

最後に、日本の父親についてどう思うかという質問が竹花会長から出されました。ゲストの皆さんと一緒に指摘したのは、子どもの教育を母親任せにしているという点でした。日本社会では、諸外国に比べ、父親は仕事について期待されている部分が大きく、労働に関することが最優先されているという特有の労働文化があることは認めたとしても、本来、両親で係わるべき子育てが、あまりにも母親に偏りすぎていること、又、母親もこれを当然として受け入れ、父親は生活費を稼いでくれていればそれで良いし、むしろその方が好都合とみえる場合もあることに、大きな違和感や危機感を感じるようです。



真剣に語り合う各国の父親たち



一緒に参加されたセルヒオ夫妻

家族はもっとコミュニケーションを！ 経済的な豊かさだけでは、子どもは育たない

ゲストの中には、職業柄、日常的に子どもたちと係わっている方が3人いましたが、子どもたちを通して現代の日本の親の問題点が見えてきて、「日本のお父さんはほとんどの時間を会社で過ごしているが、会社では子どもの話はしないし、写真もおいてない」「日本では職場と家が別々になりすぎている」「子どもの問題にもっと父親が入ってきてほしい」「両親とも子どもに簡単にお金を出すすぎ」「家庭で手伝いをさせないから、子どもは感謝の気持ちが育たない」「子どもは父親を信用していないから相談もしない」「父親はもっと子どもとコミュニケーションをとるべきだし、学校へも行くべき」「ケータイやインターネットで深刻な問題がおきているのに、あまりにも無関心」等々、日本の父親にとっては耳の痛い発言が続きました。

話は更に、母親への注文、夫婦関係にも広がり、「夫婦のコミュニケーション不足。母親が何も言わないから、父親が何も気にしないのではないか」「日本の女性は、自分がリーダーシップをとりたいので、夫にはあまり話さないのではないか。友だちはいっぱい話すのに…」という発言まで飛び出しました。

子どもの問題は、更に深刻化… 父親としての思いを子どもに伝えよう！

しかし、こういった問題は日本だけではなく、世界中共通の課題だという指摘もありました。インターネットやケータイなど、自分たちが育つ時にはなかった新しいツールが次々に出てきて、対応が追いつかないまま、それに振り回されたり、離婚による複雑な家庭環境やいじめ問題など、子どもたちを取り巻く環境は、ますます複雑で難しくなっていることが、話し合いの中からも浮かび上がってきた。

竹花会長は、「日本の父親は子どもに対する責任感が少し足りなくて、父親としての自分の考えや思いを子どもに伝えることができていない場合が多いのではないか。一方で母親は、父親を諦め、自分の責任を果たそうとして、子育てをしているので、父親はますます子どもから離れていく。子どもに対する愛情や大切に思う身気持ちは、父親には少しおけているのではないか。社会や会社のあり方にもそういう気持ちは欠けているのを感じる。前々からそう思っていたが、今日、改めて、考えさせられた。皆さんもそう感じたのではないかと思う。大切なのは、ああ、そうだったのかと気づくこと、そう思うことが大事」とし、そのためにおやじ日本がどういうことをしなければならないのか、真剣に考えていくと結びました。

語り合ったのは、日本人も含め7カ国の方々。言葉だけでなく、習慣や社会環境の違いや、夫婦や家族間に対する意識の違いが会話のあちこちに見え隠れし、興味深い意見交換会でした。この意見交換会を参考に、更に発展させ、記念大会のパネルディスカッションの成功に向けて準備を進めていきますので、ご期待下さい。



熱心に語り合う竹花会長とキム氏

○▲◇ ゲストスピーカーはこんな方々でした ◇▲○



マイケル・プリフォンテーン氏

出身国 アメリカ
United States of America
現職 東京都東久留米市立
小・中学校英語科教師
子ども 1人(1才半)

父親の期待に応えられない時にはなぐられたこともある。父親には負けたくないと言ふが、今は、年上の日本人の奥様の期待に応えるべく、大奮闘中の様子。1歳7か月の息子さんの話になると「自分のやりたいこと、なりたいものを大切にしてがんばってほしい」と笑みがこぼれた。英語教師として8年間で15~6校の小・中学校を廻り、3000人~4000人の子どもを教えた。子どもを通して見える日本の父親は「子どもに关心がなき過ぎる。母親だけに子育てを任せ、問題が起ると先生に怒りを向ける。子どもは大人の姿勢を見て育つ。もっと若い人の状況を良く見る必要がある。子どものアルコールやタバコは両親の意識の問題。もっと关心を持つべき。コミュニケーション不足が多い。特に女の子のケータイやインターネットの問題は深刻」と日本の現状を憂慮し、日本の父親に苦言を呈した。



クロス・アンドリュー 氏

出身国 カナダ Canada
現職 セント・メリーズ・
インターナショナル
中等科教頭(校長)
子ども 3人(12才、7才、3才)

世界のインターナショナル・スクールの中でもトップレベルの学校で校長を務める。トルコ、ベルギーはじめ各国の学校で指導経験があり、いじめ問題を含め教育問題にも詳しい。神父である父から、誠実に対応することの重要性を教えられた。勉強を強いられたこともなく、叱られたこともほとんどない。「父親の信頼に応えるよう頑張っていた良い子だったと思う」と子どもの頃を振り返ったが、父親としての自分は「以前、子どもの前で大喧嘩をして心配をかけてしまったので、子どもの前では2度と夫婦喧嘩はしない。子どもにとって一番大切なのは両親が愛し合っていること。子どもは大人の言葉より行動を見ていると思う」と反省も込めて語った。校長という立場では、父親不在で母親が子どもの教育のリーダーシップをとっている印象がある現代の日本社会に問題提起しながらも、労働優先の日本文化にも理解を示した。



ジョージ・アブラハム 氏

出身国 インド
India
現職 インドITエンジニア
マネージャー
子ども 2人(18才、14才)

「父親はとても優しく、叱られたことも、なぐられたこともほとんどない。1~2回叱られたことがあるが、後から考えてみると、自分が悪かったと思う。父親に言われた3つのこと<自分を大切に><他人も大切に><自分の行動に責任を持て>は、今も守っている」と、穏やかな笑みを浮かべながら語ったが、奥様からの評価という点になると、「妻はとても厳しい人。私も家庭ではいろいろやっているつもりだが、妻は、私がウチでは何もやってないと思っているようだ」と、ユーモアたっぷりに語った。2人の子どもたちは、それぞれに性格が異なり、叱られた時の態度も違うが、2人とも父親よりも母親の方がこわいようだと言う。同じ会社で働く日本の父親たちが、職場ではほとんど子ども話をしないことを指摘し「話してほしいのに…」と付け加えた。



セルヒオ・アリエル・エスクデロ

出身国 アルゼンチン
Argentine Republic
現職 埼玉栄中学・高等学校
サッカー部 総監督
子ども 2人(23才、20才
浦和レッズで活躍中)

元アルゼンチン代表のサッカープレーヤー。生活のために、サッカーを諦めて軍人となった父の夢を果たした。父親はこわい存在だったが、なぐられたことない。「悪いことをしなかったので、その必要がなかったのだと思う」と子ども時代を振り返り、自分の息子に対してはサッカーをきびしく教えたが、怒るよりはアドバイスをしたと語った。その息子さんは、現在、浦和レッズで活躍中。結婚した娘さんとお孫さんも一緒に暮らし、家族が過ごす時間を大切にしている。総監督を務める栄高校サッカー部では土日に練習試合をすることが多いが、見に来る父親は少ない。仕事のことばかり考えている。日本の親はお金を出しすぎると思う。アルゼンチンは日本より経済的には難しいが、日本の子どもたちの方がハングリーさがないと両国の若者を比較した。

○▲◇ ゲストスピーカーはこんな方々でした ◇▲○

ミア・モニ氏



出身国 バングラデシュ
People's Republic
of Bangladesh
現職 レストラン経営
子ども 2人(16才、7才)

なぐられたことはないと話すジョージ氏の隣で「僕はいっぱいなぐられたよ！」と陽気に口を挟んだ。でも、その後、なぜ父親に反抗的な態度をとったのか、その理由を話すと、父親は分かってくれたと言う。父親は「弱い人に自分を強く見せるな」「弱い人には自分を見せていい」「目上の人には尊敬しろ」と教えた。1日24時間の間には昼も夜もある。その中で楽しいことも苦しいこともある。苦しいときには楽しいことを目指して頑張るようにして生きてきたと、自身の人生を語るが、息子2人には手を焼くこともある様子で、下の子は上の子を見て育っているから、叱られるようなことは決してないと苦笑する。日本では「子どもの友だちが多いことを認めすぎる。親友は一人でいい」「父親がオフィスに家族の写真を置かないこととサラリーマンの自殺の多さは関連がある」などの持論を繰り広げた。

キム・デホン氏



出身国 大韓民国
Republic of Korea
現職 KBS韓国放送
東京支局特派員
子ども 2人(13才、10才)

九州で行われていた日韓中首脳会議の取材を終えて仕事場から直行し駆けつけてくれたため、遅れての参加。「父親は新聞記者から地方の政治家に転身した。あまり話をする人ではなく、そこは日本人と似ているかもしれない。でも、良い友だちを作るようアドバイスしてくれた」と父親を語った。父親としての自身を振り返ると「子どもと毎日話したいと思っても、仕事が忙しくてなかなか難しい」と嘆き、「その代わりに、3つのことを覚えると約束をした。1つは、子どもの学校の先生の名前。2つ目は子どもの友だち、4人の名前。3つ目は何組か…」と、子どもさんとのやり取りを明かしてくれた。

(外野席からも一言)

子どもへの思いを伝えるのはおやじ自身。
子どもの心に父親の言葉が響いていますか。
「よき父親でありたい！！」
この熱い思いが届きますように・・・。

○▲◇ おやじ日本のおやじたちも真剣な表情でした ◇▲○

日本のおやじとして森田氏が「悪いことをすると、口より先にげんこつがコツンと飛んできた」と今は亡き父親を語ると、浅野氏が「なぐられなかつたけど納屋に閉じ込められた」、橋本氏は「母親の方がこわかった。牛小屋にくくりつけられた」等々、こわい親の話が続いたが、これに対し竹花会長が「僕の父親は僕をなぐったことがない。

僕は良い子だったからね！」と応酬。会場は一気に和やかな雰囲気に包まれた。



森田氏

自分の子どもに何を伝えているか？という質問には、「小さい時はおしゃりは叩いたが、頭は叩かなかった」という森田氏が「子どもがイジメをしたときに、自分の手が痛くなるほど子どものお尻を叩き、その後相手の家と一緒に謝りに行つた」とつらい経験談を語り、子どもに伝えたいことばとして、武士道の「惻隱の情」という言葉を紹介した。又、3人の娘の父親である白石氏は「挨拶をすること、弱い者イジメはしないことを伝えているが、大きくなるとなかなかうまくいかない。でも、とにかく、口に出して伝えている」と、弱気な父親的一面をのぞかせた。



白石氏



浅野氏と伊東氏

父親としての評価は、どう考えても芳しいとは思えないと思う方が多く、仕事が忙しいのだから仕方がないと、むしろ開き直っている印象もある。罪滅ぼしのつもりのPTAやおやじの会への参加も「自分の子を見ないで、他人の子を見ている」という皮肉な結果になり、子どもだけでなく奥様からも不評だという発言もあった。

東京都教育委員会が子どもの携帯電話利用についてアピール発信！

おやじ日本の竹花会長が委員を務める東京都教育委員会は、平成20年10月9日、ネット・携帯電話に係るトラブル等に関する対応について、次のようなお知らせを発表しました。

東京都教育委員会は、子供の携帯電話をめぐる様々な問題を重くとらえ、ネット社会にあって、子供たちが被害者にも加害者にもならないよう、対策を講じることが必要と考えています。

今後の具体的な施策展開に当たって、本年7月、初めて、「子供のインターネットや携帯電話利用についての実態調査」を実施し、このたび、その結果がまとまりましたので、お知らせします。

また、児童・生徒、保護者、関係者等に対し、調査結果に見られるトラブルや被害の実態を理解していただき、注意喚起を促すとともに、具体的な行動を呼びかけるため、都内公立学校における、携帯電話の取扱いに関する「アピール」を発出することとしましたので、あわせてお知らせします。

○別添、添付資料

- 1 ネット・携帯電話に係るトラブル等に関する対応について
- 2 子供のインターネット・携帯電話利用についての実態調査報告(概要)
- 3 子供の携帯電話利用についてのアピール

- ①児童生徒の皆さんへ 一携帯電話の利用は慎重に一
- ②保護者の皆さんへ 一子供の携帯電話利用は慎重に一
- ③先生方へ 一携帯電話の利用について指導・啓発を一
- ④関係業者の方へ 一子供たちが加害者にも被害者にもならないために一

「子供の携帯電話利用についてのアピール」は、直接子どもたちにはたらきかけようということから、東京都内の小・中・高等学校で、全ての児童生徒に配布されています。このアピールは、特に関係業者に対し、子供たちが安心して利用できる携帯電話の環境づくりの推進を呼びかけている点が注目されます。

おやじ日本では、このアピールをたくさんの方々に見ていただき、一緒に考えていただくために、今回のニュースレターNO4、7ページ～12ページに4種類のアピール全てを転載しました。会合等での啓発活動にご利用いただければと思います。資料はすべて、東京都教育委員会のホームページからダウンロードすることができます。詳しくは、東京都教育委員会にお問合せ下さい。

家庭・学校から、社会全体へ… ケータイ問題を共に考えよう！

東京都の調査によれば、携帯電話の保有率は、小学校:38.4%、中学校:66.4%、高等学校:96.2%、特別支援学校:53.8%です。日本PTAの平成16年度の調査では、小学生携帯電話保有率は約1割、中学生では約3割程度でしたので、子どもたちの間に急速な勢いで携帯電話が広がっていることが分かります。親世代が育つ時にはなかった携帯電話は、大人社会の理解や認識をはるかに超えるスピードで社会全体に広がり、有害サイトへの接続からの犯罪被害、ネットいじめなどのインターネットトラブルやメール依存など、さまざまな携帯問題を引き起こしています。

政府の教育再生懇談会が2008年11月12日、小学生には携帯を持たせないようにする提言案をまとめたのを機に、全国の自治体でも、規制の動きが広がってきました。しかし、この動きについては、賛否両論があります。いろいろなアンケート調査でも、「持たせない」派と「ルールを決めて持たせる」派は拮抗しており、規制条例を発表する自治体も、最終的な対応は家庭などに任せる方向になっています。

携帯電話は「通話するための電話機」とよりも、「インターネットにつなぐ端末機器」という機能が大きく、そこに重大な危険性をはらんでいますが、ゲームや音楽を楽しむ子どもたちも多くいます。携帯電話の事業者も、通学の安全を守るためにGPS(全地球測位システム)機能や、防犯ブザーなど、安全対策の機能を開発したり、フィルタリングの普及や、携帯安全教室の開催など、環境整備を進めています。

親にとっても、送り迎えの連絡手段として必要である場合も多く、単に規制すればよいというものでもなさそうですが。家庭や学校や地域で、大人たちが子どもたちと良く話し合い、携帯の使い方をともに考えることが、どうしても必要で、もっとも重要なことだといえるでしょう。

児童・生徒のみなさんへ
—携帯電話の利用は慎重に—

今、多くの子供たちが携帯電話を利用しています。ところが、皆さんも知っていると思いますが、携帯電話には、皆さんに見てほしくない、危険な情報がたくさんあります。それを見たために、犯罪に巻き込まれた子供たちもたくさんいます。実際どのようになっているのか、東京都教育委員会では、この夏、皆さん方の一部の方や保護者、先生にも御協力いただき、調査をしました(*1)。その結果などを見て、「私たちちは、皆さんや保護者の方にも、携帯電話の問題で、私たちの意見を是非お伝えしたいと考えました。

私たちは、携帯電話にあふれかえっている、あなた方に見てほしくない情報など無くしてしまいたいと思っていますが、それはすぐにできることではありません。皆さんを危険から守ることは私たちだけではできないのです。また、私たちは皆さんが携帯電話でメールを盛んに利用していることを知っています。中には食事中や深夜にもメールの対応に追われるなど、メールに振りまわされている人も少なからずいます。それにメールがいじめや友達の悪口をいうことに使われたり、プロフィールサイトなどで自分や他人の大切な情報（個人情報と言います。）を不注意に出してしまうケースもあります。私たちは、皆さんができるだけお互いの顔を見て、声を聞いてコミュニケーションをしてほしいと願っています。メールは思ひがけないトラブルを引き起こすこともしばしばあり、また、メールがあなた方の生活を支配してしまいかねないと心配しているのです。

そこで、皆さんに、携帯電話をめぐる様々な危険から自分で自分を守ることをお願いしたいのです。そのためには、まず、必要のない限り、携帯電話は持たないようにしましょう。どうしても持つ必要があるときには、必要最小限の機能(*2)をもつ携帯電話を選びましょう。また、インターネットにつながなければならないときには、「必ずフィルタリング(*3)機能を付けましょう。そして、携帯電話やインターネットの良い点、悪い点をもっと勉強しましょう。

私たちは、皆さんが、今の時期に、一人前の社会人になるために、もっと勉強し、もっと身体を鍛えてほしいと思っています。携帯電話の利用によって、今あなた方がやるべきことを妨げられたり、危険に巻き込まれたりするようなことがあってはならないと考えています。ですから、皆さんにも、携帯電話の問題を簡単に考えず、みんなが持っているから、おもしろそうだから、持っていないと仲間はずれになりそだからといった理由だけで、決めてしまわないで、「少し待ってみよう、自分で十分使いこなせるようになるまで。便利なものには危険もあるのだから、できるだけ危険は避けよう。」と考えてほしいのです。

このことは、皆さんの保護者にも伝えています。家庭でこの問題をよく話し合ってほしいと思います。そして携帯電話を利用する場合には、その使い方などについてルールを作るようにしてほしいと思います。もし、心配なことがあったら、一人で悩まず、すぐに保護者や先生に相談しましょう。

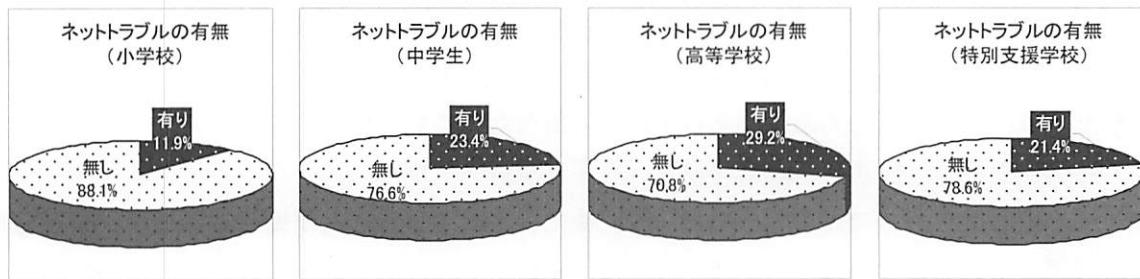
皆さんのが、私たちの思いを受け止めてくれることを願っています。

平成20年10月9日
東京都教育委員会

(*1) 【ちょうさ ひがい じょうきょう 調査における被害の状況】

携帯電話を持っている小学生のおよそ10人に1人、中学生の4人に1人、高校生の10人に3人、特別支援学校の5人に1人がネット被害に遭っています。

その内容は「メールを送らなければ不幸になるというチェーンメールを流された」「プロフやブログにきもい、うざいと書き込まれ不登校になってしまった」「出会い系サイトで会員登録したら、多額の金額を振り込めという脅しのメールが届いた」「掲示板で知り合った人から、しつこくメールがきた」など様々です。



トラブルの種類と件数

| | メールの使い方 | メールでのトラブル | チェーンメール | プロフ・ブログ | 学校裏サイト | アダルトサイト | 出会い系サイト | 個人情報の悪用 | 自殺誘引・犯罪誘引など | アルバイト紹介サイト | ゲームサイト | コミニティサイト | ヒッキングサイト | ショッピングサイト | その他 | 合計 |
|------|---------|-----------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|-------------|------------|--------|----------|----------|-----------|-----|-------|
| 小学生 | 47 | 72 | 154 | 17 | 15 | 17 | 13 | 14 | 9 | 9 | 55 | 7 | 7 | 17 | 161 | 614 |
| 中学生 | 94 | 171 | 614 | 91 | 27 | 75 | 74 | 66 | 19 | 16 | 44 | 38 | 42 | 20 | 135 | 1,526 |
| 高校生 | 73 | 95 | 227 | 97 | 35 | 53 | 62 | 66 | 16 | 19 | 27 | 42 | 38 | 24 | 64 | 938 |
| 特別支援 | 10 | 8 | 12 | 2 | 1 | 4 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 4 | 51 |
| 合計 | 224 | 346 | 1,007 | 207 | 78 | 149 | 151 | 147 | 45 | 45 | 126 | 89 | 88 | 63 | 364 | 3,129 |

(*2) 必要最小限の機能

今、業者は、以下のような様々な機能をもつ携帯電話を用意しています。

- ・通話だけの機能
- ・通話料が限定できる機能
- ・通話先を限定できる機能
- ・使用時間を限定できる機能など

(*3) フィルタリング

有害な情報に接続できないようにする仕組み。

保護者の皆さんへ
—子供の携帯電話利用は慎重に—

東京都教育委員会では、この7月に皆さん方の一部の方や、子供、先生方にも御協力いただき携帯電話に関する実態調査をいたしました。その結果を見ると、メール、ブログ、サイトなどで数多くのトラブルがあり、深い心の傷を受ける被害も発生しています(*1)。また、ネット犯罪は、保護者の方々が想像している以上に悪質で巧妙になっています。

もとより、携帯電話の通信費用は、保護者が負担しておられることと思います。子供に良かれと思って買い与えたものが、子供に危険をもたらしているのです。

この状況は、科学技術の進歩に人間社会が追いついていっていないことを示しています。携帯電話やインターネットが、便利なものである以上、子供たちを含めて、私たちはこれを危険なく使いこなす知恵を身に付けなければなりません。

とりわけ子供たちは、発達段階に応じて、必要な知識が持てるように大人が教えていかなければなりません。学校では、情報教育としてこの問題に取り組んでおりますが、御家庭でも是非お願いしたいと思います(*2)。

東京都教育委員会では、この問題は子供たちをめぐる大きな問題として、子供たちに別添のとおりメッセージを発信しました。

そこでは、子供たちは「必要のない限り、携帯電話は持たないようにしましょう。」「必要最小限の機能をもつ携帯電話を選びましょう。」「インターネットにつながなければならぬときには、必ずフィルタリング機能を付けましょう。」「携帯電話やインターネットの良い点、悪い点をもっと勉強しましょう。」と呼びかけをしました。

これを御参考に、子供が持ちたがる場合には、その必要性をよく御判断いただき、もし持たせる場合でも必要最小限の機能を持つものや、フィルタリング機能の付いたものを持たせるようにしてください。また、携帯電話を学校に持ち込ませないなど、授業等の妨げにならないようお願いします。

なお、子供たちに携帯電話を持たせる場合にはその必要性についてよく子供と話し合いをし、その使い方についてルールづくりをするようにしてください(*3)。

平成20年10月9日
東京都教育委員会

(*1) 【調査における被害の状況】

携帯電話を持っている小学生のおよそ10人に1人、中学生の4人に1人、高校生の10人に3人、特別支援学校の5人に1人がネット被害に遭っています。

その内容は「メールを送らなければ不幸になるというチェーンメールを流された」「プロフやブログにきもい、うざいと書き込まれ不登校になってしまった」「出会い系サイトで会員登録したら、多額の金額を振り込めという脅しのメールが届いた」「掲示板で知り合った人から、しつこくメールがきた」など様々です。

(*2) 【保護者の力を発揮するために】

保護者の責務として、子供がインターネットを適正に利用できるようフィルタリング機能を設定することが「東京都青少年の健全な育成に関する条例」で定められています。

また、本年6月に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が成立し、近く施行されることになっています。事業者は、保護者の承諾がない限りフィルタリングサービスの利用を提供の条件とすることなど、事業者、保護者、学校、行政機関等が、青少年の携帯電話を安心・安全に利用できるようにする責務があることなどが規定されています。

これを受け、関係業界は、携帯電話の安全な使い方を学習する機会の提供、18歳未満が所有する携帯電話へのフィルタリング機能の標準設定などの取組を進めることとしています。

このように、携帯電話の問題は、保護者はもちろん学校・事業者等関係者すべての責任において解決すべき問題として、社会全体での取組が始まっています。

(*3) 【家庭でのルールづくり】

69.4%の保護者が「ルールを決めて守らせている」と回答したのに対し、53.0%の子供が「ルールは決めていない」、もしくは「決めているが守っていない」と答えており、子供との意識の乖離があります。また、被害に遭った小・中学生の半数以上、高校生の3人に2人は保護者に相談していません。

家庭において、ファミリ e ルール(東京都/心の東京革命推進協議会作成：<http://www.kokoro-tokyo.jp>)などを活用して、携帯電話利用についての家庭でのルールづくりをしてください。

そこでは、「私の宣言書」として次のような約束が紹介されています。

- ・ 「私は、メールをやりすぎず、〇〇時までには寝ます。」
- ・ 「私は、インターネット上の掲示板では、相手の立場を考えて書き込みします。」
- ・ 「私は、不幸のメールが届いても転送しません。」
- ・ 「私は、インターネット上で知り合った人と会いません。」
- ・ 「私は、知らない人からのメールが届いたら無視します。」

先生方へ —携帯電話の利用について指導・啓発を—

多くの子供たちが携帯電話を持ち、携帯電話を使ったメールやインターネットによる被害やトラブルが後を絶ちません。また、ネットいじめによる自殺や犯罪予告など、かつては考えられなかつた様々な憂慮すべき問題も起きています。

携帯電話をめぐる子供の様々な問題は、すべての人が、それぞれの立場で真剣に取り組まなければならない社会問題ですが、目の前の子供に降りかかる危険を、学校が黙視することはできません。今、まさに、先生方一人一人が、最も影響力の強い大人として、「うちの学校の子供たちを被害者にも加害者にもさせない」という強い思いをもって接し、子供たちの安全を守っていかなくてはなりません。

また、子供たちは携帯メールを利用して、いじめ問題を起こしたり、深夜までメールの対応に追われて睡眠時間が不足したりするなどの問題があります。このようなことは、子供の成長にとって良い影響があるとは思われません。

このような状況に対し、東京都教育委員会では、児童・生徒、保護者、関係業者に対してアピールを発しています。このアピールでは、子供は「必要のない限り携帯電話は持たない」、携帯電話を持つなら「必ずルールを決める」、インターネットにつながなければならないときには「必ずフィルタリング機能を付ける」など、基本的な考え方を示しています。

各学校においては、このアピールに示した内容を踏まえ、児童・生徒の携帯電話の学校への持込みを禁止するなど、授業等の妨げとならないような明確な措置を講じるとともに、携帯電話を持っている児童・生徒には、「フィルタリング機能を設定することの必要性」と「家庭でのルールづくりの大切さ」を理解させてください。

先生方は、このアピール文を子供たちに配布して、すべての学級で、帰りの時間やホームルームの時間を使って指導を行い、子供自身が自分で自分を守る力を身に付けさせてください。あわせて、保護者会やPTA活動等を利用するなどして、保護者にもアピールを素材にした啓発を行ってください。

また、子供たちは、携帯電話を使ったメールやインターネットによる被害やトラブルがあるても、注意を受けることが分かっているので、保護者や学校に相談したり報告したりしないことがあります。こうしたことから、「学校は、困ったときには何でも相談できるところ」という雰囲気を醸成することも大切です。

携帯電話をめぐる子供たちの様々な問題は、一朝一夕に解決できることではありません。困難であればあるほど、子供の安全を守るためにには、何としても先生方の力が必要です。

平成20年10月9日
東京都教育委員会

関係業者の方へ
—子供たちが被害者にも加害者にもならないために—

携帯電話の普及に伴い、子供たちの携帯電話・携帯ネットによる様々なトラブルや被害が増加しており、憂慮すべき事態にあります。

東京都では、インターネット利用に係る事業者の責務について「東京都青少年の健全育成に関する条例」に示しています。

関係者におかれましては、今後なお一層、子供たちが安心して利用できる携帯電話の環境づくりを推進してください。

○製造業者の方へ

子供がネット被害に遭わないように、必要最小限の機能をもった携帯電話をさらに開発してください。

○販売業者の方へ

ネット被害から子供を守るため、フィルタリング機能を設定するよう「有害サイトアクセス制限サービス」などの保護者への啓発活動を一層進めてください。

○インターネット管理会社の方へ

ネット上の誹謗・中傷などの書き込みは、早急に削除するなどの対応策を一層推進させてください。

(参考)「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」から抜粋

(インターネット接続役務提供事業者の義務)

第十八条 インターネット接続役務提供事業者は、インターネット接続役務の提供を受ける者から求められたときは、青少年有害情報フィルタリングソフトウェア又は青少年有害情報フィルタリングサービスを提供しなければならない。ただし、青少年による青少年有害情報の閲覧に及ぼす影響が軽微な場合として政令で定める場合は、この限りでない。

(インターネットと接続する機能を有する機器の製造事業者の義務)

第十九条 インターネットと接続する機能を有する機器であって青少年により使用されるもの(携帯電話端末及びPHS端末を除く。)を製造する事業者は、青少年有害情報フィルタリングソフトウェアを組み込むことその他の方法により青少年有害情報フィルタリングソフトウェア又は青少年有害情報フィルタリングサービスの利用を容易にする措置を講じた上で、当該機器を販売しなければならない。ただし、青少年による青少年有害情報の閲覧に及ぼす影響が軽微な場合として政令で定める場合は、この限りでない。

(青少年有害情報フィルタリングソフトウェア開発事業者等の努力義務)

第二十条 青少年有害情報フィルタリングソフトウェアを開発する事業者及び青少年有害情報フィルタリングサービスを提供する事業者は、青少年有害情報であって閲覧が制限されないものをできるだけ少なくするとともに、次に掲げる事項に配慮して青少年有害情報フィルタリングソフトウェアを開発し、又は青少年有害情報フィルタリングサービスを提供するよう努めなければならない。

- 一 閲覧の制限を行う情報を、青少年の発達段階及び利用者の選択に応じ、きめ細かく設定できること。
- 二 閲覧の制限を行う必要がない情報について閲覧の制限が行われることをできるだけ少なくすること。

- 2 前項に定めるもののほか、青少年有害情報フィルタリングソフトウェアを開発する事業者及び青少年有害情報フィルタリングサービスを提供する事業者は、その開発する青少年有害情報フィルタリングソフトウェア又はその提供する青少年有害情報フィルタリングサービスについて、その性能及び利便性の向上に努めなければならない。

平成20年10月9日
東京都教育委員会

活動を更に加速させる必要性を痛感！ iS 運動

おやじ日本 iS 運動担当副会長 上田 和俊

おやじ日本では子どもの携帯問題に危機感をもって「iS 運動」と名づけ、おやじ日本の活動の大きな柱のひとつとして取り組んでいます。iS(アイエス)とは Internet Safety の略で、ポスターに表されるように、子どもを示す I を S が暖かく包み込んでいます。i は愛でもあります。



子どもたちの安心・安全の為に保護者が子どもに持たせた携帯電話が、便利な反面、実は、使い方を誤れば、大きな弊害のある道具であることが、毎日の報道でも明らかになっています。

おやじ日本としては、先ず保護者がケータイ問題の現実を知ること。そして、○安易にケータイを与えない○我が家家のルールを作る ○インターネット機能は本当に必要なか考えること、等を訴えています。

考えるためのキッカケつくりとして利用できるよう、ポスターや缶バッヂ、シールを作りました。ケータイの危険性や対応についての語り部も養成しています。各地でケータイ問題についてのフォーラムの開催を開催するよう、全国のおやじの会の方々に呼び掛けています。

ケータイを買い与えたのは保護者です。学校や先生に、情報モラル教育を押し付けるだけでは解決できません。先生、保護者、地域の連携で取り組むべき課題です。プロフ、学校裏サイト、ネットいじめ等々 事態は深刻を極めています。私は、おやじ日本の iS 担当であると同時に、e-ネットキャラバン安心講師、心の東京革命「ファミリ e ルール」e メディアリーダーとしても各地でお話をさせていただいておりますが、その度に、この活動を更に加速させる必要性を痛感しています。今こそ、おやじの出番だと考えます。具体的に何をしたら良いのか？ 何が出来るのか？ 皆さん、手を携えて、一緒に考え、活動していきましょう！

ケータイ問題関係資料

○「バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守る研究会」最終報告書 2006年4月

<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen29/finalreport.pdf> からダウンロード可

○「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」 2008年6月

内閣府、総務省、経済産業省のホームページに掲載

○青少年と電子メディアとの健全な関係づくりに関する条例(広島市) 2008年7月

広島市ホームページ→広報ひろしま6月15日号 に掲載

○小学生には携帯を持たせないようにする提言案 (教育再生懇談会) 2008年11月

教育再生懇談会ホームページ(<http://www.kyouiku-saisei.go.jp/>)に掲載



2008年を振り返って（おやじ日本の活動報告）

- | | |
|-----|--|
| 1月 | 運営会議 「放課後子どもプランプロジェクト」会議 ニュースレター編集打ち合わせ iS運動(アクションプラン策定、デザインロゴ決定、商標登録、ポスター、カンバッヂ、シール作成、 e-ネットキャラバン講師講習会) 83運動 全国のコンビニで運動推進協力 |
| 2月 | 運営会議 「放課後子どもプランプロジェクト」会議 全国おやじサミット in 広島参加 ニュースレター編集打ち合わせ |
| 3月 | 運営会議「放課後子どもプラン」アンケート調査結果報告 ニュースレター2号発行 |
| 4月 | 運営会議 iS運動レクチャー用パワーポイント編集 第1回埼玉県内おやじの会意見交換会 |
| 5月 | 運営会議 ニュースレター編集打ち合わせ 第2回埼玉県内おやじの会意見交換会 |
| 6月 | 運営会議 全国大会 おやじ埼玉ネットワーク発足 ニュースレター編集打ち合わせ 平成20年度役員・運営委員、事業計画、事業予算決定 法人設立記念大会実行委員会発足 |
| 7月 | 運営会議 「これからのホームページ」検討会 特別賛助依頼 ニュースレター3号発行 法人化準備(定款等) 記念大会実行委員会 パナソニック株式会社「ボランティア・市民活動資金支援プログラム」承認 |
| 8月 | 神奈川磯子区フォーラム 広島市おやじの会フォーラム 法人化準備(定款等) 日本PTA全国協議会香川大会 |
| 9月 | 運営会議 記念大会実行委員会 「これからのホームページ」検討会 法人設立総会 iS運動ロゴ商標登録 記念大会企画打ち合わせ ニュースレター編集打ち合わせ |
| 10月 | 運営会議 法人認証申請 ホームページ刷新 ニュースレター編集打ち合わせ |
| 11月 | 運営会議 「協賛広告」検討会 事務所移転式 全国おやじサミット in 富山参加 広島中央ロータリー創立記念フォーラム共催 記念大会/意見交換会打ち合わせ |
| 12月 | 運営会議 「世界のおやじ、日本のおやじ。」意見交換会 |

日本各地で、多彩なイベント開催

ネット社会と子どもたち協議会設立4周年フォーラムで、具体的対応策提案

共有しよう！情報を ネット社会で育つ子どもたちをどう導くか？～大人が 知ろう 語ろう 手をつなごう～

11月28日(金)午後6時半から、渋谷美竹の丘・しぶや多目的ホールで開催されたこのフォーラムは、子どものネット利用について、日々子どもたちに接している人たちが、具体的なネットトラブルへの対応などを紹介し合い、意見交換して、今後の活動への具体的な対応策を考えようという目的で行われた公開討論会です。ネット社会と子どもたち協議会の設立4周年を記念して行われたもので、おやじ日本も主催者として協力しました。

進行役はネット社会と子どもたち協議会の富田氏が務め、エルネット(文部科学省がインターネットを活用して、教育・文化・スポーツ・科学技術に関する学習コンテンツや情報等を全国に提供する教育情報通信ネットワーク)がオンラインで配信している「ちょっと待ってケータイ」のDVDの一部を見た後、参加者同士の公開討論会が行われました。実際にネットと子どもが関係した事件やトラブルや、架空請求の経験例等、現在進行形の具体的な事例が紹介されたり、サイトの監視業務を行っている会社の担当者からの発言もありましたが、こうすればよいと言う秘策もなかなか見つからないという、この問題の深刻さが浮き彫りになった討論会でした。

ネット社会と子どもたち協議会(通称ネット子)は、はネット社会の不の影響から子どもたちを守り、豊かなネット社会の形成と子どもたちの健やかな成長を支援することを目的に活動しているNPO法人で、2004年に設立されました。子どもたちのインターネット利用に関するイベントやシンポジウムを数多く開催すると同時に、ホームページやブログを通して、情報や資料の提供を積極的に勧めています。

富山県射水市に全国のおやじたちが大集合！

第6回おやじサミットイン富山は、「輝け！おやじ達」－地域の子供は、私達のこどもーをテーマに、11月8日(土)、富山県射水市小杉アイザック文化ホール・ラポールで開催されました。

大会は、幼稚園児の大合唱で始まり、NHKチーフアナウンサーの村上信夫氏が「おやじを語る」というテーマで記念講演を行いました。続いて行われたパネルディスカッションは、コーディネーターに水上義行氏、パネリストには、村上氏の他、大分市おやじネットワーク代表 一万田正彦氏(いちまたまさひこ)、京都から山下重喜氏(第3回全国おやじサミットイン京都実行委員長・富山県家庭教育アドバイザー宮原三千代氏らが、命の尊さを子どもたちにどう伝えるか、熱く語り合いました。

大会には全国各地から約500名が参加。おやじ日本からも2名が参加して、83運動やiS運動、2009年度に予定される法人化について、広報活動を行いました。

その後行われた交流会も大いに盛り上がったようです。次回のおやじサミットは、2009年11月22日(日)に、大分県で開催されます。



開会行事で、主催者が挨拶

子育てに係わる父親たちが交流！　おやじの会高知大会開催

11月22日(土)、高知市高須砂地のウェルサンピア高知に約50人が参加し「おやじの会高知大会」が開催されました。この大会は、県内の“父親グループ”をつなぐイベントとして、高知県教育委員会・高知県地域家庭教育推進協議会・おやじ高知忠恕会が主催したもので、子どもが先生となってのケータイメールやテレビゲームの授業や、地域のおやじの会や子育て支援をしている企業の交流会や83運動の紹介などが行われました。

主催者の「おやじ高知忠恕会」は、平成18年に高知県内のおやじが中心になり、「心ある大人が集い、子供たちを見守り育んで行ける土俵を築こう」と結成した団体で、忠恕(ちゅうじょ)のこころをテーマに、活動を続けています。

子どもの携帯問題を討議 おやじフォーラム in 広島で

2008年11月29日(土)午後、リーガロイヤルホテル広島で開催された「おやじフォーラム in 広島」は、広島中央ロータリークラブ、広島市おやじの会連絡会、おやじ日本が主催したもので、小中高校生を持つ保護者をはじめ広島県・広島市の教育に携わる方々、又、県警や防犯関係者の他、一般的の参加者も含め、約400名が参加。大きな社会問題化となっている子どものケータイについて、会場も一体となってのフォーラムが展開されました。

基調講演は、携帯問題に詳しい群馬大の下田博次教授が「子どもと携帯問題～今、大人に求められていること～」と題して行い、これを受けて、第2部パネルディスカッションが始まりました。初めにコーディネーターの竹花会長が「子どもたちに携帯を持たせているか？」という質問を会場の参加者に投げかけました。



挨拶する竹花会長

小中学校の児童の保護者では、ほとんどが「携帯を持たせない」という結果でしたが、高校生の保護者になると「持たせても良い(持たせている)」とする答えが大きく増えました。

「では大人社会がどう対処すべきか？」
という竹花会長の問題提起に、パネリストたちは、自身の経験を踏まえ、子どもに携帯電話を持たせる是非や、危険を避ける対処法について語りました。

会場からもケータイトラブルの実態など、についての発言が相次ぎ、会場が一体となって、問題の核心にせまるディスカッションが行われました。

このフォーラムは、広島中央ロータリークラブ30周年記念として行なわれたもので、翌日には、地元の中国新聞社に記事が掲載されました。広島市おやじの会連絡会事務局長の神田氏からは、「竹花会長の洒脱なリードで、観客の皆さんには、笑いながらも考えさせられることが多い、有意義なフォーラムになったと感じています」とのコメントが届いています。当日は、おやじ日本からも3名の会員が参加し、フォーラムの成功を支援しました。



発言するパネリストたち 左から

伊東 敏恵氏 (NHK アナウンサー)
黒瀬 真一郎 (広島女学院理事長・院長、
丸木 真木子氏 (広島市PTA協議会広報委員長)
尾崎 公幸 (広島市おやじの会連絡会副会長)

～ 広がれ！おやじネットワーク～

(全国のおやじの会・活動紹介)

来年度「全国おやじサミット」を開催！ 大分市おやじネットワーク



代表世話役
一万田正彦氏

私たち大分市おやじネットワークは、大分市内の「おやじの会」相互の交流・情報交換を目的として、平成19年11月に20の団体の参加のもと、発足いたしました。集会を3ヶ月に1回のペースで開催し、今後の活動について協議しました。その結果、この活動をもっと気軽に更に大分県全域に広げていくため当ネットワーク主催で『大分おやじ座談会』を平成20年11月23日に、開催いたしました。大分市内から35校、大分市外からも9校の参加があり、「おやじの会」相互の交流・情報交換が図れ、盛況の内に会を終えることが出来ました。特に、大分市外からの参加校で当ネットワークに加入し今後とも交流・情報交換を行いたいという学校もでてきており、目に見える成果となっています。

当ネットワークでは、平成21年度の計画として『全国おやじサミットイン大分大会』を開催することにしています。これは、全国で活躍している「おやじの会」の方々と大分県内の「おやじの会」の交流の場であり、「おやじの会」の活性化、連携強化を図ることを目的としています。子どもたちの健全育成、地域の活性化へ微力ながら寄与できるものと考えております。

活動を始めた当初は、あくまで任意で自発的な参加形式を取っていましたが、活動を広げていくにつれ、行政、PTA連合会、教育委員会、マスコミが支援していただくようになり、認知度は徐々に上がってきています。この活動を始めるにあたり、まずは楽しくやればいい、と思っていました。その気持ちちは今も変わらないのですが、それに加えて、私たちの活動はそれぞれの地域で、それぞれのおやじさんが、活躍できるような情報提供を行う、潤滑油の役割である事に気付きました。これからもこのスタンスを継続していきたいと思っております。

大分市おやじネットワーク 代表世話役 一万田正彦さんからのお便りです

運営会議報告（2008年7月～12月）

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 7月 26日 | 法人設立総会 記念大会 iS運動 H19決算 H20予算 他 |
| 9月 17日 | 法人化準備 記念大会 ホームページ 他団体連携 他 |
| 10月 14日 | 記念大会 意見交換会 HP・ML 整備 ネットワーク拡大 他 |
| 11月 19日 | 意見交換会 記念大会 記念誌 賛助広告 iS運動 83運動 |
| 12月 13日 | 意見交換会 記念大会 記念誌 協賛広告 iS運動 83運動 |



新しい事務所で、12月の運営会議

今後の予定 2009年1月度運営会議 1月17日(土)午後6時～

2月度運営会議 2月 7日(土)午後5時～

各地のおやじの会との連携 (2008年7月～12月)

おやじ日本では、役員が各地のイベントに参加し、全国の「おやじの会」と情報交換や交流を行っています。

神奈川磯子区フォーラム 8月30日(土) おやじフォーラムイン広島 8月30日(土)

おやじ埼玉ネットワーク情報交換会 9月 28日(日) 日本PTA全国協議会香川大会8月23日(土)

近畿ブロック大会(大阪府)11月3日(月) 全国おやじサミットin富山 11月8日(土)

広島中央ロータリー創立30周年記念フォーラム 11月29日(土) ほか

記念大会のご案内と賛助広告のお願い

2009年度・おやじ日本全国大会は、2009年6月7日(土) 渋谷CCレモンホールで、NPO法人設立記念大会として開催することが決定しました。メインテーマは「世界のおやじ、日本のおやじ」で、おやじのあり方についてパネルディスカッションを行います。大勢の皆様のご参加をお待ちしています。又、この大会開催に合わせて、これまでのおやじ日本を振り返り、これから活動の指針となる「記念誌」の発行を計画しておりますが、この記念誌に掲載する賛助広告を募集させていただくことになりました。詳細が決まり次第ご案内を差し上げますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

事務局からのお知らせ

☆おやじ日本事務所は、下記に移転しました。

★活動の広がりと共に、事務所には書類等が増え、引越し作業は簡単ではありませんでしたが、大勢の方のご協力により、無事に移転することが出来ました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

☆新しい事務所は、窓から明るい日差しがさし、NPOとして新しいスタートをきる「おやじ日本」にとって、居心地の良い「たまり場」になりそうです。今後ともこれまで以上によろしくお願い申し上げます。

★Tel&faxは変更ありません。これまでと同じです。

【発行】 おやじ日本

住所 渋谷区神南1丁目19番8号 渋谷区立労働福祉会館2階

電話&ファクス 03-3462-7113(変更なし)

ホームページ <http://oyaji-nippon.org/>

会員用ブログ <http://blog.goo.ne.jp/oyaji-deban>

事務局長 小山 洋子 desk@oyaji-nippon.org

編集担当 寺田真理子



ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます